

令和3年度 千歳市市民評価会議（書面会議）

会議名	市民評価会議（第5～6回）
日時	令和3年6月21日（月）・24日（木）
参加者	市民評価委員 7名、アドバイザー 1名

評価対象 施策	<ul style="list-style-type: none"> （1）救急医療体制の充実 （2）成熟した市街地の形成 （3）市民相談の充実 （4）環境学習の推進 環境保全における地域間交流等の推進 （5）特別支援教育の充実 （6）郷土資料の公開と活用 （7）中小企業の支援 （8）農業の担い手の育成・確保
会議概要	<p>9施策について、第1回から第4回市民評価会議における意見・質問内容を踏まえ、評価のまとめを行った。</p> <p>今後の作業としては、本会議において抽出された評価結果を、報告書（案）として取りまとめ、第7回市民評価会議に諮る。</p>

会議内容

<p>（1）救急医療体制の充実</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・ 施策内容の方向性「維持」 実施コストの方向性「維持」</p> </div> <p>施策内容及び実施コストの方向性の理由</p> <p>①各委員から寄せられた施策内容の方向性「拡充」実施コストの方向性「維持」の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医師会、医療機関と連携した休日夜間救急医療センターの取り組みは、市民に安心感を与える施策であり高く評価できる。 ・ 市民生活に直結した施策である、市民サービスの観点から水準は<u>拡充</u>する方向で努力してほしい。一方、限られた予算のなかでスクラップビルドの観点から事務事業コストは維持とした。 （※アドバイザーより：「水準の拡充」とあるが、現行の事業内容により水準を拡充することを意味しているものと捉え、事業内容の拡充・充実には当たらないと判断し、施策内容の方向性は「維持」であるとみなしました。ただし水準を高めることは重要だと思い、意見に位置付ける。） <p>②各委員から寄せられた施策内容の方向性「維持」実施コストの方向性「維持」の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナの影響などで受診者数が減少傾向であるものの、現状の<u>医療水準</u>や相談体制を維持する必要があると考えます。特に低年齢及び高齢者による相談件数は全体の50%を超えています。市全体の人口が微減となっている今、現状の体制維持は欠かせないものと思います。コストについては医師の確保はかせませません。広報活動についてデジタル化（見える化）が有効と思いますが今までの広報実績からある程度の認識はできていると思いますが今後も冊子ではなく、引き続き広報での情報提供で良いと考えます。 （※アドバイザーより：「医療水準」とあるが、医療行為（治療方法や医療従事者のスキル）の水準と捉えられないように、本施策名である「医療体制」に修正したい。また、記載の後半部分は
--

施策の方向性とコストの方向性の理由ではなく、事業内容等に対する意見であると判断し、意見に位置付ける。）

・救急医療体制の充実には欠かせない施策であることから、現状の水準の維持が妥当であると思います。

（※アドバイザーより：「現状の水準」とあるが、医療行為（治療方法や医療従事者のスキル）の水準と捉えられないように、本施策名である「医療体制」に修正したい。）

・救急医療体制の充実は市民の重要度が高く満足度は少しずつ上昇しているが、さらに満足度の充実を求め維持をしつつ高みを目指して下さい。

・市民にとって休日、夜間等に受診できる医療機関なので維持していく事が大切です。

③市民評価会議としての施策内容の方向性「維持」実施コストの方向性「維持」の理由

・医師会、医療機関と連携した休日夜間救急医療センターの取組は、市民に安心感を与える施策であり評価できる。

・コロナの影響などで受診者数が減少傾向であるものの、現状の医療体制や相談体制を維持する必要がある。

意見

①各委員から寄せられた意見

・市民の生活に医療体制の維持、できれば高度な体制への強化はとても必要な内容と考えます。医師の確保は非常に厳しいものではありますが各方面との連携を継続していただき、利用者側のモラルもさらなる向上を目指し、啓蒙も必要ではないかと思えます。

・コロナの影響などで受診者数が減少傾向であるものの、現状の医療水準や相談体制を維持する必要があると考えます。特に低年齢及び高齢者による相談件数は全体の50%を超えています。市全体の人口が微減となっている今、現状の体制維持は欠かせないものと思えます。コストについては医師の確保は欠かせません。広報活動についてデジタル化（見える化）が有効と思えますが今までの広報実績からある程度の認識はできていると思えますが今後も冊子ではなく、引き続き広報での情報提供で良いと考えます。

・市民へのPRという点では、様々な方法で取組まれていることがわかりましたが、効果的なPR方法を検討し、より市民へ周知していく工夫が必要ではないかと思えます。

・医療従事者の高齢化が体制維持困難の一因ではあると思うが、医療従事者の絶対数の確保は複合的な要因かと思われまます。人口増、充実した国際都市として都市機能を充実させるためにも救急医療体制を強固なインフラとして確立できるよう維持に努めてください。

・施策評価をするうえで、人口増加している本市においては絶対的な利用対象者が増加している観点から、指標の設定が不適切かと思われまます。

・課題とその解決、今後多様化するニーズにどう対応するか不透明です。

・市民がかかりつけ医を決めるに当たり(株)ぶらんとマガジン社で作成しているホームドクターの千歳版を作成して頂きたい。

・市民病院には小冊子にはなっていない医療機関の紹介は1枚物では有りますが是非小冊子にして市民へ配布して頂きたい。

・ちえネットワークが休日夜間急病センターと市民病院が中心の情報共有だけでなく、開業医も含めたものにしていかなければネットワークと言えないのではないのでしょうか。

②市民評価会議としての事業の推進方法に対する意見

・市民生活においては医療水準の向上と共に持続可能な医療体制の構築が不可欠であり、医療従事者の確保に向けた具体的で計画的な取組を行うべきである。

- ・市民へのPRは様々な方法で取組まれているが、デジタル化の推進は有効である一方、手に取って分かりやすい千歳版の小冊子の作成等、効果的な広報活動に務めて欲しい。
- ・ちえネット制度は在宅医療・介護の連携などにも有効な重要な仕組みであるが、多くの医療機関及び他機関が情報を共有できるような事業にすることが必要ではないか。
- ・施策の評価指標は、絶対的な利用対象者増となる状況において根拠に乏しく、見直しが必要である。

③委員から寄せられたその他の意見

- ・救急医療の適正利用との言葉が何度か出てきますが、適正利用とはどのような受診なのか、また何人ぐらいの人がコンビニ受診や日中受診できる人が夜間受診する様な不正受診したのでしょうか。問題になるような不正利用の実態についての説明がなかったように思われます。
- ・名称の通り「ささえ～る」であってほしいです。

(2) 成熟した市街地の形成

・ 施策内容の方向性「維持」 実施コストの方向性「維持」

施策内容及び実施コストの方向性の理由

①各委員から寄せられた施策内容の方向性「維持」実施コストの方向性「維持」の理由

・ この施策は都市計画に基づき土地利用の仕組などを整備・整理する事業であり、土地利用の推進、宅地供給などへの指導など、その内容は概ね妥当と思われる。市の行う様々な施策のベースとなるもので重要な施策である。

・ 人口減となっている現在なので未秩序な開発行為は暗に止めるべき内容と考えます。また、インフラ整備は高率で進んでいますが今後は農村への配備や維持管理にも予算配分する必要があると考えます。人口減＝予算減とはせずに将来を見据えた計画を立ててその内容に沿った都市計画を立案、実施をしていただきたい。

(※アドバイザーより：意見に位置付ける。)

・ まちづくりのベースとなる重要な施策であり、現在の施策内容が適切と判断したことから維持としました。

・ 人口増に伴う住宅地の整備や商業地域の見直しなど、数年先を見据えてバランスの取れた施策の実施、事業費用の配分が行われていると思われる。

・ 今後大幅に人口が増加する事は考えにくい。

・ 既存インフラ施設を活用し人と自然との調和を取り成熟した市街地を形成して頂きたい

・ 都市計画マスタープランに沿って進行しているのなら、今の状態を維持してください。

②市民評価会議としての理由

・ 土地利用の推進、宅地供給などへの指導など、その内容は概ね妥当である。

・ 人口増に伴う住宅地の整備や商業地域の見直しなど、数年先を見据えてバランスの取れた施策の実施、事業費用の配分が行われている。

意見

①各委員から寄せられた意見

・ 都市計画マスタープランとの整合性の確認などは、アンケートなどで評価することは困難と考えられる。従って成果指標の妥当性を十分に検討することが必要である。

・ 人口減となっている現在なので未秩序な開発行為は暗に止めるべき内容と考えます。また、インフラ整備は高率で進んでいますが今後は農村への配備や維持管理にも予算配分する必要があると考えます。人口減＝予算減とはせずに将来を見据えた計画を立ててその内容に沿った都市計画を立案、実施をしていただきたい。

・ 市内で新しく開発された地区では住宅建設が多くみられ、活発な経済活動がなされていると思います。但し、昭和40年代に開発された住宅街においては高齢化が進み、生活や移動手段に欠かせない公共交通機関の利便性を高めることをもっと考えてはどうかと思います。

・ 市民目線でわかりやすい評価指標を示せると、市民にもこの施策への理解を得られやすいのではないかと感じました。

・ ここ数年の土地価格の上昇により、既存市街地の空洞化等の問題が先延ばしにならないよう、随時計画を見直し、コンパクトな都市形成できるよう施策を推進してください。

・ 中心市街地の空洞化と郊外とのバランスを大切にしてください。

②市民評価会議としての意見

・ 新しく開発された地区では住宅建設が多くみられ、活発な経済活動がなされているが、一方で昭和40年代に開発された地域との格差や中心市街地の空洞化が顕著であり、バランスを重視した

施策の展開が必要である。

- ・市街地のインフラ整備に留まらず、農村地域への整備や交通の利便性の向上に向けて他施策と連携した事業の推進が必要である。
- ・成果指標は事業の妥当性を図る要素ではなく、無秩序な開発を進めることが懸念されるため、施策の理解を得られる内容にすべきである。

③委員から寄せられたその他の意見

- ・千歳市の第3期都市計画マスタープランで街がどの様になっていくか楽しみです。

(3) 市民相談の充実

・ 施策内容の方向性「維持」 実施コストの方向性「維持」

施策内容及び実施コストの方向性の理由

①各委員から寄せられた施策内容の方向性「拡充」実施コストの方向性「重点化」の理由

- ・今後も相談される内容は専門的な知識を有する方が懇切丁寧に対応していただきたいため、人材の確保は必要であると考えます。必要な予算を確保し、多様な相談に対応していただきたい。
- ・相談内容に応じた結論が早くなるもの、時間がかかるものといろいろな事象があると思いますが、相談者にいち早く安堵の気持ちがおとずれるような体制を充実していただきたい。
- ・相談員の増員を検討するならば、施策内容、実施コストともに拡充として良いのではないかと思います。
- ・新型コロナウイルスの影響や高齢化率の上昇に伴い、相談窓口の重要性が今後も高くなると思います。関係機関との連携や相談体制の強化に努めていただきたいです。

②各委員から寄せられた施策内容の方向性「維持」実施コストの方向性「維持」の理由

- ・市民相談は、市民が抱える困りごとを相談できる窓口であり重要な施策である。また市の行う様々な施策に市民を導く入口でもある。従って施策内容、実施コストを維持とする。
- ・市民ニーズの多様化しつつある現状にある一定の成果があるものと認められます。
- ・現代社会の中で市民のさまざまな問題が多様化しており、さらにコロナ禍で益々一人で悩む事が多く、精神的な病になりやすく、市民に孤独感を少しでも柔らげる為に充実をして頂きたい。
- ・市民のあらゆる相談に適切に対応したとの事なので維持して下さい。

③市民評価会議としての理由

- ・市民への相談窓口としての一定の機能を有しており、他機関との連携も図られていることは評価できる。
- ・千歳市は流動人口が多いことに加え核家族が多いため、多様な相談に応じられる窓口が今後も重要である。

④上記「理由」についての意見（追加や加筆・修正など）

※アドバイザーより：「拡充」「重点化」の意見もあったが、本施策については「拡充」「重点化」したとしても、拡充や重点化しても専門的な事が多くなり、その問題解決には職員の充実ではなく弁護士の領域になり限界がある、といった課題が発生することが懸念されること。本年4月1日施行の改正社会福祉法により、重層的支援体制整備事業が市町村の任意事業となり、各種の相談を他機関で連携して受け止め、解決する仕組みを講じることができると踏まえ、現状においては「維持」「維持」とし、これらについては意見に記載することにしました。

- ・コスト増となっても専門の相談員を増員することが必要と考えました。それにより相談員がいない日がなくなり、相談者の待ち時間が短縮され、相談件数の処理が十分に行えると考えました。

- ・維持・維持でよいと思います。拡充・重点化の場合、担当課で明確な方向が見えませんが、
- ・方向性は維持、実施コストは維持 理由は市民相談窓口としては努力されていると思います。様々なご意見は有ると思いますが拡充や重点化しても専門的な事が多くなり、その問題解決には職員の充実ではなく弁護士の領域になり限界があると思います。
- ・実施コストについては、相談員の待遇改善や増員を検討するという事であれば、人件費分コストの増加と方向性を定めて行くと、検討するだけで終わってしまうのではないかと思います。重点化とし、待遇改善等を行うことを前提とした方が適切ではないかと考えました。
- ・増員や待遇改善が必要であると示している一方で、現在の体制で施策の成果・進捗状況を「B」とし概ね成果が得られていると自己評価していることから、増員を行うのであれば、施策内容が拡充・重点化されていくべきと考えました。

意見

①各委員から寄せられた意見

- ・市民が相談しやすい体制づくりと問題解決への支援に向けた取組として市民相談が位置付けられていると思われる。市民が相談できる窓口としては法テラス、人権擁護委員会など国などが実施している取組があり、それらとの関係が必ずしも明らかではない。理由にも記したように、市あるいは国の行う様々な施策への導入口として、市民相談の役割を分かりやすくした方がよいと思われる。それに伴い成果指標の設定も再考することが必要である。
- ・市民増、ニーズの多様化に対応し、都市機能として窓口の充実が必要不可欠と考えます。都市機能の充実、限られたコストでの運用する観点から、地域の特異性の問題や類似案件等の問題について、匿名性を確保しつつ市民に共有するといった取組も検討する必要があると思います。
- ・少ない人員のなかで私たち頑張っていますではなく、人員増や市民相談事業に係わる事務事業費も必要であれば増額、相談員の待遇改善等も含め職員課等と検討では無く前に進めてください。

②市民評価会議としての意見

- ・市民が相談できる窓口は法テラス、人権擁護委員会など国などが実施している取組があり、それらとの関係が必ずしも明らかではないため、市民相談の役割を整理することが必要である。
- ・相談に応じるだけでなく、相談の具体的な解決に向け、各種の専門領域との連携による重層的な支援体制の構築に務めて欲しい。
- ・評価指標は市民相談員・弁護士による相談研修の実績となっており、市民からの相談全体を測るものではないため、見直し又は指標の追加が必要である。
- ・地域の生活課題については、特異性の問題や類似案件等の問題を市民に共有し、市民と共に解決を行う取組みも検討する必要がある。

③委員から寄せられたその他の意見

- ・市民相談件数目標値 1,500 件、千歳市は通勤族に加え核家族が多く身近に相談できる人がいない市民まで救いあげて相談を受けるだけの余力があるのか疑問です。まずは、人員確保が先決ではないでしょうか。

(※アドバイザーより：千歳市において本施策が必要な背景として「理由」に位置付ける。)

(4) 環境学習の推進・環境保全における地域間交流等の推進

・ 施策内容の方向性「維持」 実施コストの方向性「維持」

施策内容及び実施コストの方向性の理由

①各委員から寄せられた施策内容の方向性「縮小」実施コストの方向性「効率化」の理由

・ 「環境保全における地域間交流等の推進」については、施策内容（白書の発行など）が地域間交流とは適合していると思えないので縮小とした。

（※アドバイザーより：白書の発行は、経年変化を捉えたデータを揃え、発行することが目的ではなく、そのデータの利活用を本施策及び他施策（特に環境学習の推進）と連動させることに価値があるものと捉えられる。施策を構成する事務事業「環境情報提供事業」についても市民を対象とした環境学習的な要素が強く、「施策名：環境学習の推進」と統合した施策の展開が必要であると感じる。評価委員会としては2施策を統一して評価する必要があるため、施策内容の方向性を「維持」、実施コストの方向性を「維持または「効率化」とし、市に対し両施策を統合することを提案したい。）」

②各委員から寄せられた施策内容の方向性「維持」実施コストの方向性「維持」の理由

・ 環境学習の推進は、地域の環境を保全していくことの重要性を市民に啓発する施策であり、環境白書を小学4年生全員に配布、環境クイズや環境活動スクール制度など環境学習は将来を見据えた重要な取組として評価できる。維持・維持の評価としたが、維持とした予算のなかで、水準を充実させる努力をお願いします。

・ 環境教育はこの世代から次世代の将来につながるとても良い取組だといえます。年少の頃は親の管理で意識なく行動していたことが自身でできる年代、考える年代となって“なぜ分別が必要なのか？”分別することで自分自身にどの影響があるのか、まず、動機や意識付けするには必要な事であると考えます。知識として記憶されるとモラルのある大人として振る舞いが意識せずに行えるようになると思います。

（※アドバイザーより：「意見」に位置付ける。）

・ 施策内容、実施コストともに適正であると感じたことから維持としました。
・ コロナ禍においても、本市独自の環境教育を推進していることは評価できる。引き続き本市独自の地域性ある環境教育、SDGsを意識した施策として推進は評価できる。
・ 環境を考える上で、まだまだ学ばなければいけない事が多くあると思います。大人も子供も将来の人が快適に生きていく為の環境をみんなで考える機会が大切である。そして広く地球規模で多くの人と手を取りあって地域間交流を大切にしていきたい。

（※アドバイザーより：「意見」に位置付ける。）

・ 環境について学ぶことも、環境保全について関心を持ってもらう事も大切なので維持です。

③市民評価会議としての理由

・ 両施策は相関性が非常に強く、別々の施策として事業を展開することは施策の展開及び実施コストに非効率な影響を及ぼすものと考え、施策の統合化を行うことが必要である。
・ 経年変化を捉えた環境白書の発行と白書を用いた小学生への環境学習の推進は将来の環境都市を見据えた重要な取組として評価できる。
・ 子供から大人まで多くの市民が環境を考えるとともに、SDGsへの取組を理解する機会が設けられており評価できる。

④上記「理由」についての意見（追加や加筆・修正など）

・ 施策の統合化が望ましいです。

意見

①各委員から寄せられた意見

- ・環境学習の推進については、アフターコロナに向けて新たな展開と期待する。特にSDGsの意識を児童生徒に植え付ける取組として意識してもよいと思う。加えて教育委員会とうまく連携して、初等教育の正課のなかに環境学習を組み込めるとよい。千歳市の特徴はICT教育であるが、ICTを活用した環境学習もテーマとして成立すると思います。
- ・なお、白書発行は重要であり今後も続けるべき施策である。そこで別の施策として白書発行を行った方がよい。当然評価指標も見直す必要があります。
- ・環境教育はこの世代から次世代の将来につながるとても良い取組だといえます。年少の頃は親の管理で意識なく行動していたことが自身でできる年代、考える年代となって“なぜ分別が必要なのか？”分別することで自分自身にどの影響があるのか、まず、動機や意識付けするには必要な事であると考えます。知識として記憶されるとモラルのある大人として振る舞いが意識せずに行えるようになると思います。
- ・年齢にあったカリキュラムを段階的に継続することでこどもの頃から親しんだ環境保全の重要さの理解を深めるように大人や地域の方々とも積極的に交流する機会を増やしチームリーダーの養成にもう少し力を入れるとよいと思います。
- ・こどもへの施策が充実している反面、その他の年代に対するアプローチはまだ充実していない印象を受けました。環境保全は全世代で取り組むものであると思うので、是非様々な取組を検討していただきたいです。
- ・コロナ禍で学習環境が大きく変化し対応に迫られると思う。学習環境に捉われない市独自の環境に対する学び方やコンテンツ等を整備し施策目標が達成されるようなものを検討していただきたい。

②市民評価会議としての意見

- ・年齢にあった環境学習や環境保全のプログラムを段階的に設ける工夫をして欲しい。
- ・SDGsの推進や環境保全は全世代で取り組むものであり、市民に対する更なる動機付けや意識付けが必要である。
- ・ICTを活用した環境学習の推進など、教育関連施策との連動性を踏まえて欲しい。
- ・環境保全活動推進として各団体が行っている活動については、その実績や効果、回収されたものがどの様に活用されたのかなど、市民に伝えて欲しい。

③上記「理由」についての意見（追加や加筆・修正など）

- ・環境学習について、児童対象ですが希望すれば大人も一緒に参加でき学習する機会を検討してほしいです。
- ・環境保全活動推進として団体等で行っている回収活動ですが、年間の回収量とか回収されたペットボトルキャップや割りばしなどの様に活用されているのか市民にお知らせしてほしいです。

④委員から寄せられたその他の意見

- ・昨年度は、コロナ感染症防止の為にほとんどの行事が中止になって行っていないにもかかわらずなぜ施策の評価がAなのか疑問です。

(5) 特別支援教育の充実

・ 施策内容の方向性「維持」 実施コストの方向性「重点化」

施策内容及び実施コストの方向性の理由

①各委員から寄せられた施策内容の方向性「維持」実施コストの方向性「重点化」の理由

- ・ 対象人数の増加に伴うコスト増は必要な事と考えます。支援を必要としている方々の個性にあった内容で長期わたって自立への支援を行っていただきたい。
- ・ 拡充の理由が、教育体制維持のためのとなっていることから、施策の内容の拡充には当たらないと考え、維持としました。
- ・ 人件費等のコスト増が見込まれるということから、実施コストについては重点化としました。

②各委員から寄せられた施策内容の方向性「拡充」実施コストの方向性「維持」の理由

- ・ 毎年、児童生徒が増加するし個別に対応するのであれば拡充でしょう。
(※アドバイザーより：「拡充」とあるが、現行の事業内容（施策内容）は変わらず、対象児童生徒が増加することで費用がかさむことに理解を示しているものと思います。よってこの記載は実施コストの重点化とみなします。)

③各委員から寄せられた施策内容の方向性「拡充」実施コストの方向性「重点化」の理由

- ・ 特別支援教育は、共生社会を築くうえで重要な施策であり、拡充・重点化で進めて頂きたい。
- ・ モデル事業実施を契機に独自の教育環境整備や中高一貫の取り組みは大きく評価できる。
- ・ 障がいのある児童生徒が健常者と同等の教育の機会を受ける事の出来る様さらなる充実を図って頂きたい。

④市民評価会議としての理由

- ・ 特別支援教育は、共生社会を築くうえで重要な施策であり、モデル事業実施を契機に独自の教育環境整備や中高一貫の取組を行っていることが評価できる。
- ・ 現在実施している児童生徒に対する個別・長期的な自立支援の内容を維持しつつ、対象児童生徒の増加に伴う実施コストについては重点化を行うべきである。

⑤上記「理由」についての意見（追加や加筆・修正など）

- ・ 方向性は維持で良いのではないかと 特別支援教育の充実は総論では重要であると思いますが、具体的に何を拡充していくのかまだまだ事業内容を拡大、充実させなければ市民の満足度が得られないのかを含め検討するべきではないか。よって担当課からの考えも聞いて施策の拡充は何をするのかを考えてみるべきであると思います。
- ・ 維持・重点化で宜しいと思います。拡充の場合は具体的施策内容が必要です。

意見

①各委員から寄せられた意見

- ・ 「共生社会」を広く市民に理解して頂く施策である。そのため特別支援教育を充実させるだけでは不十分で、他部局などとも協力して市民理解を得る試みをお願いしたい。また成果指標についても再考をお願いしたい。
- ・ どうしても引きこもりがちになることが考えられます。個人的なつながりにこだわる場面もあると思いますが「連携」を実施して行くことも長期的に考えることも必要と考えます。
- ・ これまでの取組を継続することが、特別支援教育の充実や水準の向上につながるのか判断ができないと感じました。

- ・重要な施策だからこそ、もっと施策の課題を分析して示していただきたいと感じました。
- ・拡充、重点化を推進していくのであれば外部の専門家等の評価を導入し、市独自の施策を今以上に魅力ある教育環境として昇華していただきたい。
- ・コストの方向性は、事務事業3番と4番、保護者への経済的負担の軽減、内容が交通費（ガソリン代・バス代）と援助金の支給、児童生徒への現在の取組を維持した場合コストが増加するので重点化したようですが、健常児の児童生徒でも保護者の経済的負担はゼロではないので、もう一度支給する経費を見直してはどうでしょうか。

②市民評価会議としての意見

- ・障がいのある児童生徒が他の児童生徒と同等の教育の機会を受ける権利を得られるように事業の推進に努めて欲しい。
- ・地域共生社会を広く住民に理解していただく施策でもあるため、他部局と協働した市民理解を得る試みを実施して欲しい。
- ・一方、地域共生社会は社会的包摂の概念が重要となっており、地域社会と融合した施策の展開が必要である。
- ・成果指標は「満足」、「やや満足」に「普通」を加えた数値となっているほか、特別支援教育全体を測っており正確な評価が見えず指標の見直しが必要である。

③委員から寄せられたその他の意見

- ・アンケート結果がやや満足と普通を合わせてカウントしているが、本当に満足している人の割合はどうか、それによって施策の方向性の評価が変わってくるように思います。

(6) 郷土資料の公開と活用

・ 施策内容の方向性「拡充」 実施コストの方向性「重点化」

施策内容及び実施コストの方向性の理由

①各委員から寄せられた施策内容の方向性「維持」実施コストの方向性「維持」の理由

・ 歴史に触れる機会が少なくなることがないように、予算を確保して維持すべきと考えます。世界遺産への登録が認められる見通しが立ったことからこれまで以上に関心が高まることが考えられます。発掘調査や文化財の保護には費用も必要です。定額の費用を利用者に負担していただくことでもコストの急激な上昇は抑えられると考えます。

(※アドバイザーより：必要な予算の確保や文化財の保護に費用が掛かることについては理解を示しているため「重点化」と捉えます。一方で、費用の捻出方法として「利用者に負担」とあるため、意見に位置付けます。)

②各委員から寄せられた施策内容の方向性「拡充」実施コストの方向性「重点化」の理由

・ 埋蔵文化財の保護とその公開について、長年の取組の成果がイコモス勧告に結びついたものと考えられる。地味で根気の必要な取組であるが、今後も充実した取組を期待している。加えて市民の理解を得る取組の充実も期待し、拡充・重点化とした。

・ 世界遺産登録への動きに伴い、市民の郷土意識が高まることが予想されるため、拡充・重点化としました。

・ 本市における郷土資料が着目されたこともあり、利活用の機会が増えたことは喜ばしいことであり、本機会を起点に新たな取組を期待します。

・ キウス周堤暮群の世界文化遺産の登録は市民の歴史認識の向上に大きな役割をはたし、これを機に郷土資料の公開と活用に努め千歳の歴史に多くのこども達がさらに興味を示し、ふるさとに誇りを持ってほしいと思います。

・ キウス周堤墓群が世界遺産に認定されれば、観光資源として公開活用されるので拡充。

・ 体験学習などで郷土の文化、歴史を学ぶ機会を子供たちに提供しているのです。

③市民評価会議としての理由

・ 埋蔵文化財の保護とその公開について、長年の取組の成果がイコモス勧告に結びついたものと考えられ評価できる。

・ 今後は利用価値の創出や市民理解の醸成に向けて更なる事業推進が重要であるとともに、その費用についても重点化する必要がある。

④上記「理由」についての意見（追加や加筆・修正など）

・ 拡充・重点化で宜しいと思います。

意見

①各委員から寄せられた意見

・ 今後は広報活動も力を入れなくてはならないと考えます。今回世界遺産に登録される古墳群は地域を超えて連携することが必要だと思います。広域的な関係構築も視野に入れた窓口を検討した方が良いのではないかと考えます。

・ 一時的に市民の郷土意識は高まると思いますが、一時的なブームで終わらない様、教育機関や市民団体等と連携し様々な仕掛けを検討していただきたいと感じました。

・ 新たな具体的な取り組みが見えていないことから、予算の活用については一過性のものにならないよう効果的に活用していただきたい。

- ・郷土資料館（埋蔵文化センター）市場の所をなんとか活用出来ないのか検討して下さい
- ・千歳の観光資源として、キウス周堤墓群、支笏湖、アイヌ文化と農業体験型（グリーンツーリズム）等が挙げられます。これらは、担当課が異なりますが協力した事業の展開を行って欲しいです。

②市民評価会議としての意見

- ・古墳群の魅力や価値創出に向け、他自治体との更なる広域的な関係構築に努めることが重要である。
- ・市民協働を進めるなど、市民の理解を高め、市民と共に推進する施策展開が必要である。
- ・観光資源としての利活用など新たな取組みを検討して欲しい。
- ・キウス周堤墓群に限らず、他の史跡・遺跡、支笏湖、アイヌ文化、グリーンツーリズム等、庁舎内外の連携した取組を行うべきである。

③委員から寄せられたその他の意見

- ・市提案型市民共同事業としてボランティアガイド養成として講座を開催していますが、キウスだけでなく国指定史跡ウサクマイ遺跡群、市指定美々貝塚等も有ります。遺跡、史跡等だけでも専門的に案内できるガイドを養成できるといいですね。

(7) 中小企業の経営支援

・ 施策内容の方向性「維持」 実施コストの方向性「維持」

施策内容及び実施コストの方向性の理由

①各委員から寄せられた施策内容の方向性「拡充」実施コストの方向性「重点化」の理由

- ・ 新型コロナウイルスの影響により、多くの中小企業が今後も長期的な支援を必要としていくことが予想されることから、維持ではなく拡充・重点化が妥当と判断しました。
- ・ 創業支援に力を入れたことは大きく評価できる。
- ・ 創業以上に、中小企業には運営面での手厚い支援が重要であるので中小業者相談所と連携し、独創性ある企業が数多くなるよう施策を推進していただきたい。

②各委員から寄せられた施策内容の方向性「維持」実施コストの方向性「維持」の理由

- ・ コロナの状況で、中小企業の支援を行っていくことは重要です。そのため維持・維持としました。
- ・ コロナ禍での企業活動そのものの維持は非常に難しい環境となっているため、経営支援は欠かせないものとなっていると考えます。実効性のある支援策がとられているが早急な支給がスムーズに行われることも必要です。現在の金銭的支援策を維持することが重要と考えます。
- ・ 新規起業する方にはノウハウを伝授する支援体制が整っています。このままセミナー等を継続していただきたい。
- ・ 本来ならば拡充と重点化であってほしいが、今何をすべきかと非常に悩む時である事を考えて維持しながら充実して頂きたい。
- ・ 昨年からコロナ禍の中、市内中小企業の経営や金銭面での相談も受け支援が出来ているので維持。

③市民評価会議としての理由

- ・ 企業活動の維持は千歳市の発展のために不可欠な取組みであり、本施策は実効性のある展開が図られていると評価できる。
- ・ 一方、コロナ禍における企業への影響は今後顕著に表れてくることが想定されるため、現状においては施策内容、実施コスト共に維持と評価したが、状況を適切に見極め、必要に応じ、より効果のある事業の創出とコストの重点化を行うことを期待したい。

④上記「理由」についての意見（追加や加筆・修正など）

- ・ 施策の方向性が明確ではないため、現状では維持・維持とします
- ・ 私としては本来拡充、重点化としたいのですが、コロナという敵にどう向い、企業の有り方等コロナ収束後どう有るべきかが非常に難しいと考えています。今までは当面行政の支援や銀行融資で持ち堪えています。今後は企業が独自にどう有るべきかを考えていかなければなりません。よって何をやる事が経営支援になるかも良く検討して拡充、重点化に向うべきと考え、今は維持、維持が良いと思います。
- ・ 空き店舗の解消につながるなど、まちの活性化に向けた循環づくりを目指すとありますが、創業・起業セミナーと比べると、経営の安定化などに対する金銭面以外の支援がもっと充実しても良いのではないかと感じたことから施策の内容の方向性を拡充としました。
- ・ 新型コロナウイルスの影響により、多くの中小企業が今後も長期的な支援を必要としていくことが予想されることから、コストも増加していくであろうと考え、実施コストの方向性を重点化としました。
- ・ リーマンショックや東日本大震災と比べても、相当大規模な落ち込みとなっている。この落ち

込みを取り戻すためには、これまで以上の長期的視点に立ち、事業者のニーズに対応するとともに、施策やメニューの充実を図る必要がある。

- ・中小企業相談所の人件費補助であるが、17年度以降、16年間、900万円の一定額とされている。北海道の最低賃金が1.34倍となっており、人件費のベースアップ等を考慮すると、これまで縮小されてきていたこととなるのではないかと。体制の現状維持をするうえでも、予算を重点化する必要があるのではないかと。

- ・上記から施策内容の方向性は「拡充」であり、実施コストの方向性は「重点化」という評価のもとに取り組むべきと考える。

意見

①各委員から寄せられた意見

- ・アフターコロナに向けて、市の事業と商工会議所の支援について分かりやすく説明できるようにしてください。評価指標についても再考をお願いします。

- ・セミナーの内容において、成功事例を聞くとやる気が起きてくるとは思いますが、ほろ苦い体験も必要な事と考えます。ある程度の厳しさも必要と考えます。

- ・融資審査で時間ばかりかかることの無いように手続きの簡素化や省力化も必要と考えます。

- ・市内の中小企業並びに市民生活のため、ぜひ体制強化を検討していただきたいと思いました。

- ・中小企業はこれからが経営手腕が問われる時期に入ります。公的融資の償還が始まり、倒産件数も増加傾向になることが明らかです。中小企業相談所と連携を強化し市内企業の経営健全化支援を強化していただきたい。

- ・中小企業相談所の充実に努力して頂きたい。

- ・昨年の市のコロナ対策の支援において市職員の対応は非常に相談しやすく、中小企業相談所もその様な対応でやるべきだと思います。

②市民評価会議としての意見

- ・本施策で市が目指す方向性や主体的に行う事業と商工会議所を支援することの相違や役割の違いを明確にする必要がある。

- ・経営支援においては、手続きの簡素化や省力化を行い効率的で迅速な対応に努めて欲しい。

- ・創業支援から自立した経営までの展開が見えにくいため、中小企業相談所と連携を強化した支援体制の構築が必要である。

③上記「理由」についての意見（追加や加筆・修正など）

- ・創業支援から自立した経営までのフローが見えてこない。中小企業相談所と連携した支援体制の構築が必要ではないのか。

- ・別施策になるが、本年度策定した第3期商業振興プランを推進するためにも、中小企業へこれまで以上に人的支援、利子補給を通じた資金的な支援が今以上に必要と考える。

(8) 農業の担い手の育成・確保

・ 施策内容の方向性「維持」 実施コストの方向性「維持」

施策内容及び実施コストの方向性の理由

①各委員から寄せられた施策内容の方向性「維持」実施コストの方向性「維持」の理由

- ・ 施策の中心は新規就農研修であり、目標値に向けて着実な成果が見られる。長期的には研修の実施では就農者を増やすことは困難である。千歳市で就農する魅力、例えばスマート農業の拡大に向けた新たな施策が望まれる。
- ・ 担い手として新規就農するためには安定した収入が欠かせないことだと考えます。補助金や税制の優遇制度の確立は就農者にとっても心強いと思います。
- ・ 現状の施策内容で一定の効果も見えていることから、施策内容・実施コストともに維持としました。
- ・ 本市における1次産業の担い手の確保は、他産業への波及側面から重要な施策と考える。引き続き産業安定のため施策を推進していただきたい。
- ・ たしかに農業の担い手不足や営農者の高齢化等様々な課題はありますが農業のパート、従業員は集まりやすくなっている状況であります。
- ・ それは法人化等で一般の会社と同様な就業形態で近代化している傾向が有りさらに充実していく必要があると思います。
- ・ しかし経営者の立場としては担い手の育成確保だけではなく外的要因（気候）の影響を受けやすく経営が安定しにくく資金的にも先行投資が多く近代化に陰を落しているのではないかと思います。よって現状維持をして高みを目指して頂きたい。
- ・ 産業振興部農業振興課に於いて総合評価もご自分たちで出されているので維持でよいと思いますが、問題点・課題、今後の方向性・取り組み等も解っているのなら施策の内容評価はAではないでしょうか。

②市民評価会議としての理由

- ・ 本市における1次産業の担い手の確保は、他産業への波及側面からも重要な施策であり、目標値に向けて着実な成果が見られることは評価できる。

意見

①各委員から寄せられた意見

- ・ 新規就農者にとってアフターフォローが重要で、その結果が就農者の定着につながると思います。施策の大きな意味を確認しながら、具体的な方策を検討して頂きたい。また評価指標については、就農者を増やすことは困難と思われる状況であるから、千歳市として維持すべき就農者数や維持すべき耕作面積を考えてはどうか。
- ・ 製品を早く、より遠くに送れる交通網の利便性を生かす事により生産する品種を多様化することもできると考えます。環境に合うものを見極めや生産方法について研究することも必要と考えます。
- ・ 担い手不足への対策として、今後ICTの活用が増加してくると思われることから、光回線の整備や、ICTに関する研修会など是非進めていただければと感じました。

②市民評価会議としての意見

- ・ 事業をとおして新規就農した市民の就農の定着に向けては、就農者に対するアフターフォローが重要である。
- ・ 千歳市として維持すべき就農者数や維持すべき耕作面積をマスタープランとして計画化し、そ

これらの数値を評価指標にするべきである。

- ・担い手不足への対応として、ICT活用やスマート農業などの推進と併せた施策の展開が必要である。

③上記「理由」についての意見（追加や加筆・修正など）

- ・追加として新規就農が農作物の生産だけでなく、ファームレストランの経営やハスカップ生産者がジャムやソフトクリーム等を販売しているように新規就農者が農業に夢を持てる施策であってほしいです。

- ・農業についてのマスタープランが必要と思います。その中で各施策が策定されるべきと思います。